明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

家庭雜誌

第貳卷

第九號

明治三十七年九月二日發行

婦人の撰擇心（曲川生）……一
果物の話（久田二葉）……五
○果物とは如何なるもの　○果物と効用　○果物の色と形と味　○果物の調理
家事のくさ〴〵　△油に火の遷つた時　△黒い靴下　△板椽に光澤を出す法　△曇つた鏡　△ハンケチの洗ひ方　△眞鍮の器具……七
英國の家庭教育（渚山譯）……八
七　トクトルの前半主　八　他愛の精神
九月のハナコヨミ……一八
シチウの話（祿亭主人）……一九
二葉園藝（エデンの花守）……二一
○花壇の樣式　○九月の園藝　○キャベーヂの種類　○妙華園のことども　○花の友新家庭の友へ
家庭通信（午山生）……二四
予の妻の死に就て（堺枯川）……二五
悲慘なる少女の運命（渚山生）……二九
編輯便り……三二

由分社

東京市麴町區中六番町十番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲本紙は婦人の味方となり時に社會の壓制と戰ひ時に婦人の鞭撻者ともなる
▲本紙は婦人を理想境に導かんことを期すれども尙現社會を忘るゝことなし
▲社會の根底は家庭に家庭の中心は婦人にあり本紙此點より社會改良を期す
▲本紙は婦人界を進歩せしむる根底の女子敎育にあるを信じ此方面に盡力す

婦女新聞

毎週
月曜

定價一部三錢
三ヶ月卅七錢
半年七十二錢
全國無郵稅

▲新しき婦人問題の論義を聞かんと欲する人は必ず本紙に來らざるべからず
▲婦人男女學界の出來事を知らんと欲する人は必ず本紙を讀まざるべからず
▲本紙は發行以來滿四年を經て今や漸く婦人界の一勢力と見らるゝに至れり
▲夫人令孃女敎師女學生にして本紙を讀まざる人は時勢に後るゝの悔あらん

東京市牛込區東五軒町四一
發行所（電話番町千三百六番）婦女新聞社

●本誌定價及廣告料

一部	一ヶ月	六ヶ月	一ヶ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無遞送料

廣告料――特別一頁七圓、普通一頁五圓

注意

一、本誌は毎月一回（一日）發行とす。
一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。
　但し郵券代用の節は五厘切手にて一割增の事。
一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。
一、爲替振込局並に受取人はすべて無指定の事。

明治三十七年八月廿九日印刷
明治三十七年九月二日發行

發行兼編輯人　東京府豐多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地　西村惠治郎

印刷人　東京市京橋區日吉町十番地　中村彌助

發行所　東京麴町區中六番町十番地　由分社

大賣捌所　上田屋　良明堂　東京堂　東海堂

印刷所　東京市京橋區日吉町十番地　近藤商店

婦人の撰擇心

（關東關西婦人の比較）

曲川生

予は元來九州生れの者でありますれど、過ぐる數年間、（彼是れ十ヶ年足らずの長い間）、京都、大坂、奈良の地方で月日を送つて居りましたので、其間日常目にし、又耳にする諸般の事柄の中で、婦人に關する事なども尠からず予の頭腦に堆積されました。又地方新聞の三面記事なども、矢張り見るとはなしに見る方でしたので、云はゞ關西（餘り大袈裟の云ひ方かは知らぬが、）の婦人に關する消息には、略ぼ通じたと云つてよいかと思ひます。然るに一方では長らく東京の新聞を購讀して居ましたので、其三面記事中に表はれる事柄中の婦人の消息、即ち關東（正しく云へば東京）婦人の消息も間接に少しづゝ頭腦に堆積しました。さてかく東西婦人の消息が、同一の頭腦中に集つて參ると、勢ひ上之を比較して見たいとの考へが其處に浮ぶのであります。予が上京以來未だ二三ヶ月にしかならぬのですから、實際目で見た材料とては何もありませぬけれども、若し幸に過去數年間に亘る東京新聞の記事で、予が間接に了解したる婦人に關する事柄に大した誤謬さへなくば、茲に少しく東西に比較をして見るのも亦面白いかと思ひます。

同一の點は別に比較する迄もない事でありますから先づ予は東西婦人の尤も異なる主要なる事を申しませう。それは男子に對する觀察力の發達せると否との點であります。撰擇心の缺乏せると否との點であります。約して云へば愛に主張があるとないとの點であります。關西の婦人は一般に、愛に主張がないのです、撰擇心が乏しいのです。男子を觀察するに、唯々、其有する財産と、其纏へる衣服と、其表看板たる顏貌とだけにしか意を用ゐません。唯此三つさへ合格すれば、關西

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の婦人は其男子を及第さするのであります。甚しきは三つの中の終りの二つさへあれば、及第さするのであります。其相手の修養、性質見識材能但しは心意氣、品格、などには決して考へ及びません。目前懐中の財布が重たげに見へるならば、本來無財産のものでも矢張り財産ある人だと考へます。杜撰、淺薄、卑陋、優しく云へば無邪氣、心よしの絶頂でありませう。目的は唯々物質の外何物もないのでありますから勢のかくなり行くは寧ろ當然とでも云ふべきでせう。

　勿論除外の例はあるとしましても關西婦人に就て予が前の如く歸納する所の基礎たる材料は決して尠なくないのであります。かく歸納するより外に歸納の仕方がなき程の材料があるのであります。

　婦人が男子を觀察し、撰擇する、主要の點（そして悉皆の點）が唯三つ、財産（時として唯懐中の財布）と衣服と容貌、ア、かくして何の處にか貞操の本據が存しませうぞ。抑々貞操とは他物を以て滿足し難き、他人を以て代へ難き或者が我伉儷にあるからこそ、初めて我心に生ずる所の自由の發作となるのではありませんか、習慣上の貞操、壓制の貞操、僞善の貞操は姑らく云はず。眞の尊き貞操とは極めて自由に極めて自然に、自己の心に湧き出する所の一種の我儘でありまして、他物他人を以てしては到底承知が出來ないと云ふ意氣地見識を云ふのであります。一たび甲なる男子を我伉儷としたが、其甲が亡くなつたので、今度は乙を以て再び我伉儷とする。乙なくなれば更に丙を以て之に代へると云ふ有樣では、餘りに見識がなさ過ぎ、我儘がなさすぎ、意氣地がなさ過ぎるではありませんか貞操とは實に守るべきものでなく、守らせられるべきものでは猶更なく、止むに止まれぬ我の意氣地なのです。貞操ならざらんと欲するも能はざる所の我が見識なのです。苟も自己を滅却して顧みざるものゝ外は必ず此狹量、此頑固、此見識、此意氣地があるべき筈です『來るものは拒まず』的博愛主義と正反對なる極めて狹き心の門、此門は我生涯に唯一人の男子の通行を許すのみで、其通行の資格は、極めて峻嚴なる苛酷なる我の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

主張我の見識の試験にかけて、及第と認めたるもの唯一人(前に此かる人なく後にかゝる人なく)而して一たび開かれし後永劫に此門は閉さゞる、此の如き心の門ア、之れが眞の貞操ではないでせうか。(一生涯心に染む人に遇はずして、潔き獨身生活を送る人は矢張此意味の貞操であります。)關西の婦人に此心の門がありません。よしあつても其門の構造が甚薄弱で、且其門番は金錢さへ見れば何人でも門を通します、一々事例を擧げて其依據を示すのも憚りますが、唯、中流以上の家、食ふに困まらぬ家の子女さへも、金錢の爲に貞操を賣るは平氣な物で、朋輩同志が其得し金高の多きを相誇るものありと一言して置きます。

之は撰擇の目的が金錢にあるよりして生ずる必然の結果でして、別に怪むに足らざる事であります。之に比して關東婦人の撰擇力は餘程發達して居るやうであります。心の門が甚だ堅固なやうであります。愛に主張があるやうであります。男子を觀察するに、しかく淺薄な卑陋な無邪氣な樣子がなくて、充分深き處があるやうであります」此門容易に男子をして通行せしめず」との意氣地があるやうであります。約言すれば關西婦人の如く物質のみを目的としない風があるやうです。『假令餓死するまでも心に染まぬ人には許さぬ』と云ふ程の、氣慨があるかなしかは分りませぬが、さりながら單に美しき容、美しき指輪、美しき衣服、多き小使錢を得たい爲に、自己の節操を汚して平氣なりと云ふ事は斷じてないやうに思はれます。

知らず關東婦人に對する予の觀察は誤つて居ませうか、以上は關西關東の婦人の比較をしたまでゞすが予は西洋婦人の此方面に於ての消息を小說等で見て、關西婦人よりも關東婦人が非常に發達してゐる如く、我國一般婦人よりも、非常に發達して居りはせぬかと考へるのであります。西洋婦人は『此門を開くに足るの男子あらば開きもせん、若しなくば永久に閉させる儘、此生涯を送らん。』との自重心が非常に強いやうに思ひます。つまり此心の門は決して容易に男子の爲に開かない、其通行を許さないとの意地が強いので、所

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

謂秋霜烈日の操は此處より發するのです。日本婦人が此門を是非一度だけは男子に通行して貰はねばならぬと、心淋しく通行者を役設けるやうな低い見識に比べて、果してどの位ゐ違ひませうか。自信自重心に伴ふ戀愛、主張ある意氣地ある狹く深き戀愛、之は到底日本婦人が西洋婦人に及ばざる所であるやうに思ひます（此責任は今日の婦人諸君に存するにあらずして從來の社會組織と固陋な風習とに存すると思ひます）自重心に伴ふ戀愛に貞操の附隨するは明白の理であります隨て其反對に、自信に乏しき愛に貞操の伴ひ難きも亦明白の理でありませう。主張なき愛に貞操ありとせば、そは實に習慣上の貞操です。世間を憚る貞操です。然り僞りの貞操です。予は守るべき又守らせらるべき貞操なるものを、眞の貞操とは認めないのであります。

こゝで思ひ當るは八月の分にあつた枯川氏が「我が好む川柳」中に、（前略）妙句に合へば、殆んど我を忘れて、愉快痛快を叫ぶのであります。其代り私は又、駄句惡作が大の嫌ひで玉石同架の本だと見ると、決し

て其まゝ見過す事が出來ず、必ず點を打つか棒を引くかして石を罵り、玉を賞せずには居られないと云はれた事であります。こゝが見識で、こゝが止むに止まれぬ我儘で、こゝが撰擇心であります。薫猶を識別するの見識なく、撰擇心に乏しきものは、どれもこれも朦朧氣によく思ふので、眞の鑑賞力のない素人が、繪畫を見てどれも奇麗だと思ふ斗りで、畫の天才を其中から撰擇して嘆美することの出來ないのと同じでありますつまりは趣味の缺乏です。併し畫の素人が畫に對して朦朧たるは止むを得ぬとしても、苟も婦人が男子に對して其一生の伴侶を撰擇するのに爾く朦朧として居てよいでせうか。予は茲に何も好んで關西婦人の弱點缺點を持出したのではないが、撰擇心の缺乏は我國婦人の通患でありまして、眞の意味の貞操がまだ本當に婦人の心に理解せられて居らぬかと思ひましたので、かく關の東西に於ける婦人の心の門を比較し、貞操の眞の意義を明かにし、併せて習慣上の僞善の貞操より眞の貞操に進まれんことを希望致したのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

果物の話

二葉生

◉果物とは如何なるものを指すのでありましやうか、勿論、梨とか柿とか林檎とかに指を屈せられるであらうが、アレを結實る植物から申しますと、名もわからぬ野邊の小草の實も胡瓜南瓜も、皆な同じ使命と目的と要素の下に出來たものだから、やつぱり果物と申さなければなりません。ですから植物學では、總てあのやうなのを果實と云つて居ります。さて這處で見ると我々の稱へる梨や西瓜や林檎は、水菓子の異名に過ぎないことゝなるのであります。皆さんは這般の消息を間違へて下さいますな。さて

◉果物の効用に就いて少しく話しませう。

△自然は氣候に依て人體に適する産物を供します。即ち夏の暑い時は體内のいろ〳〵な機關の働きが遲鈍となり消化力も衰へますから、胃腸を勞さないで消化される果物などを與て呉れるのであります。

△暑い時はどうしても水を呑うとします、しかも水には病菌塵埃が混つて居る。此時數個の果物があつたら頗る妙ではありませんか、果物の中に含んで居る水は蒸溜水と同質のものである上、營養になる砂糖の幾分が混つて居るから無二の飲料の代用であります。

△又、果物の中に含んで居る酸味は精神を爽快にするばかりでなく、此酸味は種々の黴菌を撲滅す作用がありますのは、レモン果汁の中へ虎烈剌病のバチルスを入れると直ぐ死ぬのでもわかります。

△果物の酸味は又、胃腸を淸淨にし從つて消化作用を活潑にする効能があります。

△果物は色も形も奇麗で食するに手數がかゝらぬので我々の嗜食するに最も適したものと思ひます。

△世間、是を食して下痢を起す人がありますが、それは用法を誤るからで、多分就寢前に多食したり、未熟なものを嗜んだり、氷や冷水といつしよに用ゐたりし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たからで御座いませう。理屈の上の効用丈けをザッと申してさへ是だけあります。其上に注意すれば實に天與の美術品食品たることがわかります。

◉果物の色と形と味

自然は何故彼のやうな奇麗な形や美色芳香を、植物に敢てさせるのでしやうか、つまり植物は先づ其果質の色で動物や人を引きつける。次に形と色との配合美によつて益々其眼と心とを惹き、次で其芳香美味を嗜まれるのであります。

そこで自然の巧妙と偏頗ならざるに驚くのは、斯様に動物に喰はれると云ふも皆な植物自身の利益で、これで以て同類廣く播布し繁殖するの路を開くのであります。そこで色形香味の美なる果物の種子は、硬い皮を被て居る。杏とか、少さくて丈夫な皮の林檎とか、腐り難い滋味の多い柿とかの類で、我々が其美味なので嗜食はするもの丶、硬い喰はれぬ種子はどこへでも捨てしまう。よし獣類が種子共喰つても皆な大便と一しよに下してしまいますから、やつぱり捨てられた所落ちた所で種が萠芽をし、だん／＼生長するのでありまして、是で果物が立派に見事に熟した甲斐があつたと申すもので御座います。

しかし今では人間が、接木法や挿木法に依つて植物を殖やして生長を助てやりますので、彼等のある者は自分獨りで繁殖する必要が無いから、遂に種無蜜柑のやうなものも出來るので御座います。

それはさうと果物の色と形の配合をよくして結實したり、手提籠に盛つたのは、なんとも申されぬ美しさ奇麗さで御座います。日本も近頃ヨホドよい果物を産するやうになつたが、まだ／＼改良して立派なものをたんと産し、此自然の色と形と香味の美を容易く我等の嗜みとせられるやうにせなければ駄目です。人を殺すことが文明的でも、人を生かし働かし滿足させる農藝園藝工藝が、依然太古の風では、誠に心細いことではありますまいか。さて終りに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●果物の調理

に就てちよつと申上げて置きます。彼の長く貯へられぬ果物や少し胃腸を害する果物は、之を種々に調理して、何時でも珍らしく食膳に載せ、或は菓子として嗜むものであります。調理法によつては、生果の状態を損はぬやうにするものと、全く變つてしまうのとありますが、素々果物の性質によつて、各人の嗜食と胃に適するやう調理をするので御座います。以前は果物貯藏及調理の唯一手段として砂糖漬をしましたが、アレでは多量の砂糖を使つたのですから、果物固有の風味が損せられます。

こんなことを一度に委しく申上げると、皆さんの食傷を招く虞れがありますから、今は唯だ、調理上に至つては容易いものから御實驗の上、上手になられんことを説明もせぬに、新家庭の御婦人達に希望致して置きます

柿の木であいと答ふる小僧かな　一茶

掌に愛して見する蕾かな　太祇

家事のくさぐさ（Home Notesより抜萃）

○油に火の移つた時　それを消すには饂飩粉を振りかけるが上分別です。其上へ水を注ぐ事は大禁物、愈々火の手を上げさすばかりです。

○黒い靴下　兎角洗濯すると色の落ち易いものです。これを防ぐには、一度水で洗つた後、ブルーウオーター即ち鹽水（海水なれば、尚妙なり）で以て再びすすぎなさい。必ず善き色が出て長く保ちます。石鹸や、性質の悪い石鹸で洗ふ事は靴下の爲めによくありません。

○板椽に光澤を出す法　生亞麻仁油とパラフイン（山毛欅の樹脂で出來た白色透明のもの）とを七分三分の量に混合し、これで最初一通りこすりなさい。尤も段々と光澤の出るのは、其後の事ですから、毎日乾燥した布で丹念に拭く事を忘れてならぬ。

○曇つた鏡　不景氣な物です。これに溌剌とした光りを出すには、先づ白堊を水に溶かして薄き糊の如きものを作り、それへ極少量のアンモニア液を加へたもので、鏡の面を擦するのです。それが乾いた時、今度汚れてない拭巾か、柔らかい羊の革などで磨きなさい。直きに透通るやうな光が出て來ませう。

○ハンケチの洗ひ方　ハンケチを洗つたならば、其濕氣を帯びて居る内に火熨斗を掛け、火熨斗の熱で乾かすやうに考へればなりません。此方法を用ゐれば、洗つたハンケチも長くしやんとして形をくづさず、汚れも左程速かでないやうです。

○眞鍮の器具　用ひる前には能く拭く事です。兎角生じ易い銹を防ぐ爲には、鹽か酸味を含んだもの（醤へげ酢の如き）で充分擦つた後、水で以て洗ひ清め、更に乾いた布で拭くのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ランダル家

〔英國の家庭敎育〕

渚山譯

七　ドクトルの前半生

冬の日も厭に寒いある午後の事である。トム、エドガア、並びにアルバアトの三名は、例の醫師ハルストン氏の住宅へお茶の御馳走に呼ばれて行く筈になつて居た、と云ふのは、其日の朝方氏が此三少年に逢つた時、近頃自分の手許へ來た大きな顯微鏡と、外に不思議な二三の珍物とを見せるからと、固い約束がしてあつたのである。

アルバアトは身慄ひし乍ら、外面を眺めて『此樣な日に外へ出られないぢやないか。凍付いて死んでしまひさうだ。何時かハルストンさんから聞いた、シベリアの旅人のやうに……』

『何だつて。誰だね、寒いなんて意久地のない事を云つて居るのは？』と、エドガアが皮肉に口を入れると、

アルバアトは少しむつとした調子で、『君は強いよ。今日迄に風邪なんど引いた事はないだらうから。』

此時ランダル夫人は優しい聲で、二人の間を宥め乍ら、『アルバアトには温かい襟巻を貸してあげやうねえ。それをばきつしりと首に捲いて、さつさと歩きさへすれば、決して風邪なんぞ引く事はあ・りません。』

斯くて、アルバアトは寒氣を冒すべく説伏せられ三人は間もなく醫師の家に到着した。すると、丁度其入口の石段の所にあたつて、一個の少年が高い聲を出し得ずに、しく／＼と泣き乍ら蹲踞んで居る。其樣子を見ると、何か餘程の心配事が小さな胸を痛めて居るらしい。家の內からは下男が顏を差出して、

『お前其所で何して居る。』と言葉付和らかに尋ねて居るが、子供は滅多に返事をせぬ。相變らずすゝり泣して、痩削けた細い手で涙に汚れた顏を蔽ふて居る。

暫時無言で眺めて居たトムは、固より深い同情に富んだ少年、『一體君はどうしたの。』と、憫然さに思はずもから口走つた。

多分小供は此優しい慰問に動かされたのであらう。改めて又涙に破れたが、終に我が悲みの原因を飾りなく物語つた。其噦泣いて居る所爲で、トムの耳にも明瞭には聞取れなかつたけれど、話の前后を按排し、足らぬ言葉を補つて見ると、大約次のやうな事柄が綜合されて來るのである。即ち、少年の母親は今朝何か品物を一籠彼の手に渡して、市中を賣りに廻らせた。然るに彼の弱々しい脚を終日引擦つて廻つた結果は、僅かに金六錢に相當する丈の賣上である、のみならず、其歸途には弱い者いぢめの二人の惡少年に出逢ひ、脚に大傷を負はされる程に痛々しく突倒された。併し、これ丈ならば少年も辛抱をしやう。只何にも増して心配な事は、自分が傷付けられると同時に、母親から手渡された肝腎の商賣品が、大抵水溜の中へ轉ろげ落ち、賣上げの六錢さへも何處へか一所に失つて了つた事である。小供の名はジョーと呼び、一里餘り離れた隣村に住んで居る。

トムとエドガアは此物語を聞き終ると、直に各自のポケットに手を入れた。此時若しハルストンが傍に來て居ず、兩人の肩尖へ其手を掛けて居なかつたなら、彼等はもう有丈の小使錢を此哀れな少年に惠與へた事であらう。氏は頗る嚴格な態度で、『いや、お待ちなさい。私が一つ問糺して見ませう。さあ兎も角內へお這入り。其傷を見て上げるから。』

ハルストンは流石に世故を經て來た人物、件の少年の顏色を一目見ると比しく、彼の口から出た憫然な話は、決して出鱈目の虛言ではないと云ふ事を直に信じた。彼の脚の傷は可也に甚く、不斷に鮮血が滴つて居る。籠の中には鳥打帽子やメリヤスのさるまた、其他種々小さな商品を入れてあるが、水溜へ落された所爲で、品物は皆な汚れて濕つた儘である。其上見るにも氣の毒なのは悄然と力なく衝立て居る其姿、様子では隨分空腹にもなつて居るらしい。醫師は早速傷口を洗つて繃帶を施し、それから、料理人を呼んで彼を溫き臺所に案內させ、取急ぎ茶と麵包との馳走をするやうに命じた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それと間なしに、主人夫婦を初め三人の少年は用意のしてある食堂の火の傍に席を列べた。主人の曰く、

『誰でもよい君達の一人が、自分の食料を自分の力で儲けるものと假定して見なさい。長閑にしては居らないでせう、あの子供はまだあれで十歳位だが、隨分慘憺な世渡りをして居るらしいです。』

『さう、あの子は弟のチョスより年長だとは思はれません。チョスは今年七歳なのです。』とトム。

『いや、さうでない。總て彼樣な風の貧亡に苦んで居る子供達は、充分の營養分を採る事が出來ないから、それで身躰がいぢけて發達しないのです。』と、無念げに云ふ主人の言葉を夫人が受けて、『取敢へず今日の所は、あの子供に何か持つて居る品物を買つてやつたら如何でせう。』

『只譯もなく金錢をやるよりは、それの方が餘程上策です。』

此時トムは醫師に向ひ『併し私とエドガアとには、モスリンの帽子や、小兒のする前垂の用途がありませんから、品物を買ふ代りに何かあの子供に爲になる物でも遣りたいと思ひます。』

『ぢや、僕はねえ兄樣、此間迄着て居た古い外套を遣らう。僕にはもう小さいのだから、早速母上樣に聞いて來やう。』とエドカアが急立つのをトムは落付いて、

『だつて、それは僕等自身の惠みとはならないよ。外套はもと〳〵母上樣のだから。』

『ぢや僕等自身の手で出來た物を惠んでやらう。それとも又何か商賣品を仕込んでやつてもよい。』

『うむ、それは好い思付だ。如何でせう奥樣、どんな品物を買つてやるのが一等善う御座いませうか。』

夫人はトムの此問ひに對し、針や糸などの手輕なものを買つた方がはけ易くて、子供の爲に善からうと答へた。其間に子供は臺所で腹一杯の御馳走になる、身躰も充分温かくなつたので、俄に元氣が滿々て來て、樣子は丸で以前と別人のやう。彼自身も大丈夫此足で家迄歸れると信じて居た。

今や、此小さき哀れなる少年の面には、溢るゝやう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

な喜びの色を見る時機が來た。それは、ハルストン夫人が傷物になつた商品を多分に引受け、餘程の代價をその爲に拂つてやつたからである。其上、彼は又日々不如意な暮しをして居る母親に對し、大きな茶と砂糖の一包を贈物として夫人の手から受けたのだもの、物心付いた斗りの少年であらうとも、其深い情には且つ謝し且つ喜ばずに居られない。

主人は又改めて小供の名と家の番地とを尋ね、近々の内に其母親を訪れる旨の約束をさへしたのであつたが、頓て此家を辭すべく立上つた少年は、其脚の常ならぬにも係らず、胸中自ら春ある如き愉快と幸福とを感じた。

ジョーの服裝は全くの襤褸ではなかつた。此點に於て、彼は他の貧少年達に比べて遙かに優れて居る。無論着た物の年代は古るからうけれど、品質と縫方にはいかさま物と大分違つた所がある。彼の母親は世の所謂後家さんで、數人の小供を抱へた苦勞人。それでも此度の棉の不作がなかつた迄は、洗濯や火のし、偶には裁縫なども手傳つて、家内一同の口を養つて居たのであるが、不景色な昨今の模樣では、一錢銅貨一つだつて誰も容易に儲けさせて呉れぬ。それのみならず、心配と營養不足との兩責で、健康は日に日に衰える斗り、二三日前からはもう些細の勞働にも堪えぬ身體となつて了つた。

ジョーは親切な人の家を出ての歸途、今日と云ふ日の幸福であつた事、愈々我家へ歸れば母親は何と云ふであらう、など丶小さい胸に樂しい空想を浮べて歩んで居る。併し、ハルストンの家に集つた茶話會の人達は、ジョーが只あれ丈の事で、其樣なに有難がらうとは思ひもよらぬ。と云ふのも、彼等は共に善き父を持ち、善き母を得て、何時も順境に生育つ人であつたのだから、貧少年の心持を充分に想像する餘地がないのである。

「僕は醫者なんぞ厭やだなア。病人――のみぢやない貧亡人の世話までして、一生を終らなけりやならないのだもの。僕だつたら、先刻などの時は早速金子を門

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

から放出して、後に面倒が掛らないやうに考へるねえ、家へなんぞ決して入れやしない。』

例の調子で、アルバアトは突然とかう叫んだ。夫人は微笑を彼に見せ乍ら、

『だつて、それ丈ぢやあの子の心を和らげる事は出來ないでせう。水臭いものです。深い感じが胸の内に起りませんよ。』

『それは知つてます。大變結構な方法です。只私の申すのは、私丈は其樣な面倒を見て居られないと云ふのです。併しお宅ではそれを好んでなさるのだから、私には不思議に思はれます。』

エドガアは其間へ割入つて、『不思議ぢやない普通さ。我々がかうやつて一室に集つて居る時、あの哀れな小供が來た爲に、どれ丈皆の愉快さを増したと思ひ玉ふか。』

『左樣。我輩はその愉快を得た上に、貧と云ふものから貴い敎訓を受けたやうに思ふ。』と云ふ醫師の言葉をトムは受けて、

（一二）

『貴下が敎訓と仰有るのは、世の中の貧しい生活をして居る人と比べて、自分が遥かに幸福であると云ふ事をお考へになつたのでは御座いませんか。』

『勿論さうです。そして、神の御心に對しては、飽く迄も遜讓と耐忍とを以て仕へねばならぬと云ふ事を學んだです。それに就いて思ひ出すのは、私が今日の職業に從事するやうになつた最初の道筋、それには二人の貧亡な婦人がありまして、畢る處私をして今日あらしめた譯でありました。』

小供達に取つては全く初耳である。ハルストン氏の前半生に其樣な事があつたとは、現在の子息でさへ承知して居なかつた。氏は四名の少年から口々に責立てられて、終に半生の物語を始めるべく餘義なくされたのである。其說く處を聞くに、彼が幾歲月の間甲所から乙所へと放浪し、最後に此ハズレハムへと流込んで來たのは、まだほんの靑年の時代であつた。其時分には醫師と云つても技術に拙く、近隣の信用を買ふにも容易の業ではなかつた。小さな家を借りて開業丈はし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たもの丶、固より患者らしい者は一人も來ぬ。それ故、ともすると辛抱心がなくなつて、自暴自棄に陷り、全然職業換をして見やうかと思つた事も度々あつたと云ふ。かくして、彼が一人の患者もなしに店を張つて居た事が一年間も續いた。彼はもう殆んど未來の希望を失ひ、勇氣沮喪して了まつて、此度こそは外國へでも逃出さうかと思つて居る最中、突然そこに二人の貧しい婦人があつて、彼に思ひ掛けなき強い決心と忍耐力とを與へたのである。

『一體どう云ふ譯ですか。』と、少年達は一時に視線を老醫師の顏に集めた。氏は一息に茶を啜つて、『其時分私は大變深更迄勉强をして居た。と云つて何も必要に迫られた譯ではなく、畢竟用事がない故仕方なしに學問の方を勵んで居たと云ふ丈の事です。處が、丁度向側の家の窓でも、毎夜同樣に遲く迄火がついて居るから、私も不思議に思つて隣家の人に聞いて見た。誰か病人でもあるのではないかと。すると、隣りの人は私に答へて、あれは他人から縫物を引受け、其賃錢で其日〳〵の生活をして居る姉妹者です。兩人は餘程好い家の娘樣だつたが、父親が放蕩したので、反對に負債が出來、到頭彼樣な運命に娘達を陷して了ひました。けれどもあの子達は感心です。毎晩深更迄精出して一日も休まず、そして一人の弟を寄宿舍へ入れて勉强させて居りますよ。』との事だ。さては解つたと私は思つた。そして非常に打たれた。纎弱い女の身でさへ其樣に力作して居る。向ひ合つた自分は何だらう。辛抱のない決心の定まらぬ、娘達のやうな確乎とした勇氣が何處にある……から思ふと、吾乍ら恥しくなり、これは一つ大に奮發せざるを得ないと云ふ氣になりました。

『其内に、段々私の顏が人にも知れて來たが、來る患者は大抵貧亡の人斗で、生活は依然困難であつた。が一日私はある患者の家で、トム君等の父上樣に出合した。私に取つて其時の君等の父上樣程好い手蔓になつた事は曾てなかつた位、多分父上樣の方でも私の心底を見て呉れたのであらう。私は非常に父上樣が好きになり、以來無二の朋友となつて今日迄温い交際を續

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

げて來たのです。私が今日のやうに澤山な患者を引受ける事になつたのは、偏に父上樣のお陰ですが、併しそれよりも有難いと思ふ事は、父上樣から强い感化を受けた結果、熱心な神の歸依者となつた事です。若し神なくして私が今日迄生て居たならば、それこそ希望も何もない哀れな無賴漢となつて居る事でせう。』

ジオフレイは此時衆に先じて口を開いた。

『ぢや父上樣、二人の娘さんはどうしたの？』

『さあ、其後の消息は知らないが、どうせ安樂に暮して居るには違ひなからう。だが、私をして今日の眞面目な醫者にならせたのが、自分等二人であらうなどとは、決して夢にも思つて居ない事だらう。』

八　他愛の精神

恰も日曜日の霜深き朝、例の三人の少年は其友達と一所に近くの池へ氷辷に出掛けた。チユリア孃も定めし此一行に加はりたく思つたであらう。只頑固なチヤロッテが一向に趣味を解せず、何程勸めても甲斐がないので、彼女は少妹と共に小さな橇を行り、辛じて

不滿の情を慰さめて居たのである。

少年の一群は總ての慾望邪念を打忘れ、只嬉々として其快活な遊戯に耽つて居た。すると、忽ち一人の子供が遙か彼方に當つて恐しく立昇る黑烟に指示した。

『お〻火事だ！』

『ヤツ、僕の家らしい。』とトムが叫んだ一瞬時、少年達は爭つて其方面に驅付けた。丁度エドガアは第一着者であるらしかつたが、彼が最後の四角を出る時『シンプソン老爺さんの家だ！』と息も切々に叫び出して後を顧る。併し火勢はまだ左樣に擴がつて居らぬ。若し消防の事に宜しきを得たならば、或は消止むべき望がないとも限られぬ。

『消防屯所へ使をやりましたか。』

トムは其家の前に立つて居る五六の人々にかう問ひ掛けたが、誰一人それに滿足な答へをするものがない。只うろ〳〵と其邊をまごつき、此火急の場合に對して何をなす事の可なるべきかを全く知らぬ。

『よし、僕が行つて來やう。』云ひ捨て〻、驅出した。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ドガアが、曲角迄行くと丁度一群の水車場人足がすた〱云つて走つて來た。

『蒸氣ポンプはどうしたね？』

『直きに參ります。』

火車場は初めて屈强な消防夫を得たのである。エドガアは引返す。トムは種々と斡旋する。特に其家がランダル家のであつたから、水車場の支配人は非常に力瘤を入れて人夫共を指揮して呉れる。近所の人達は漸く正氣に返つた樣子で、アルバアトなど丶一所に、其家の臺所道具を取出すのであつたが、肝腎の待焦れて居る蒸氣ポンプは、今に到着しないのである。

五分の後ポンプは往來の中央に雷のやうな音をさせて運ばれて來た。直樣熟練した人の手に依つて、其機械力を應用したが、惜しい事には稍時機を失し、火災に罹れる家の棟は、今にも地上に燃落ちんとして居るのであつた。何にも增して哀れなるは、燒出された不幸な一家の人々、彼等は僅ばかり擠出された日用家具の間に座つたり起つたり、恐ろしさと心細さに五躰をぶる〱慄はせて居る。一家の人々とは老人が一人とそれに娘と孫、揃ひも揃つて無能力な者ばかり集つた事故、何かの事は皆他人の情に縋らねばならぬ。老人は其皺枯れた目の縁を淚に沾し乍ら、

『あ丶憫然な犬め、何處に行き居たかなア。』

傍に居たアルバアトは丁度此嘆聲を聞咎めて『犬、何處に居るのだね。』云ひつ丶流なす汗を拭くのである彼も今日は全くの別人のやうになり、此火事場にとつてはなくてはならぬ一人前の働き手であつた。

『家の內に居ります。外へ出られぬ故、今に燒死んで了ひませう。』

『何處の部屋だ？』

『あの裏手の臺所です。けれども貴下それを助けて下さるには及びません。第一貴下の生命が危なう御座います。』

老人はかう云つてアルバアトを振返ると、もう彼は何時の間か姿を隱した。

『あッ、誰か來て下さい。あの若い紳士を止めて下さ

い。私の犬を助けに火の中へ飛込んで行きます。』
老人の疲せた咽喉から出た聲は、終に誰の耳にも聞えずに了つた。で、彼は殆んど狂氣するやうに起上り、自分でアルバアトの後を追はうと試みた一刹那、不意に彼方から宙を飛んで驅寄つて來る一匹の老犬、老人を一目見ると、其足元に匍伏して一聲高々と吠出した。

引代へて勇敢なるアルバアド、火焔の中に包まれた所爲であらうか、それとも神經が餘りに興奮し過ぎた結果か、兎に角彼が危く陷落しやうとする棟の下を離れた時は、全く前後不覺の狀態で地上に仆れた。ハルストン氏は豫め期して居たのであらう。『アルバアトが氣絶した！』と大抵の人は姦しく云ひ罵つて居るに係らず、自分は靜かに彼に近寄り、一滴の氣付藥を其口に垂らした。すると、アルバアトは間もなく正氣に復し『あ、失敬、僕は傷なんぞしません。火傷もしない。只烟で息が詰つた丈です。』と、直にまた起立らうとする。

『いや、さうでない。君の頭髮が焦げて居るぢやないか。烟に燻づて顏なんぞ見違へるやうだ。兎も角宅へ來るがよろしい。』

と醫師は親切に其手を引いてやつた。群集は口を揃へてアルバアトの勇敢な行爲を嘆美する。それには彼も少なからず喜ばされて、火傷の痛みも覺えぬ位に胸を轟かす。シンプソン老人は其娘と共に、代る〳〵彼に感謝の辭を述べるし、それに見習つた老犬は、彼の手に縋り〳〵頻りに尾を振つて庇恩に謝した。

蓋しトムとエドガアとが此時に覺えた快感は一通りのものでなかつたであらう。エドガアは先づ口を開いて『君は今日の最大勇者であつた。僕も嬉しいよ。』

アルバアトは既に火傷の個所に手當を施し、靜にドクトルの家の腕掛椅子に身を托して居るのである。

『よく燒殺されてしまわなかつたねえ。不思議だよ。どうしてまた君は彼樣な火の中へ飛こまうと云ふ勇氣を出したのだね？』

『いや、臺所には其樣にまだ火が廻つて居なかつたさ僕は戶の前迄行くとあの犬が死ぬるやうに吠えて居るから、無鐵砲に飛込んで、うんと斗り紐を切斷つてや

つたのだ。それと殆んど同じ瞬間に、劇しい熖と烟とが一所になつて、どつと僕の顔をなめたやうに思つたが、僕の覺えて居るのはそれ限りで、其後の事は丸で夢のやうだつたよ。』

此時ハルストン氏は眞面目な風采を作り、『その無鐵砲は善くなかつたねえ。併し兎に角命拾ひをしたのだから、一同で神に御禮を申さねばならぬ。』

『ぢや貴下は私のした事が惡いと云ふのですか。』

『左様、我々同胞の生命を救助すると云ふ目的でない限りは、決して好ましい事とは云れない。それだから、冒險なぞ云ふ事は決して安賣をしてはなりません。』

『併し貴下。』とアルバアトは遮つた。『併し、あの犬は老人の大變に愛して居た犬で、當時私が傍に居て聞いて居られなかつた程、犬の燒死ぬ事を苦にして居たのですよ。だから僕は萬事を忘れて救つてやりたくなつたので、何も好んで冒險を試た譯ではないのです。』

醫師はアルバアトが正面になつて來るのに失笑し乍ら、『宜しい。私も此際の事だから甚くは君を責めません。が、君の此火傷を叔母様が見たならば、最早二度とは其様な事をするものでないと仰有るだらう。』

果然、其日の出火一件はランダル家の夕餐の食卓に主なる話題となつて顯はれた。定刻に事務所から歸つて來たランダル氏は、夫人の手料理を味ひ乍ら、非常な興味を以て小供達の語る處を聽聞した。無論アルバアトが其利己的怠惰心を屈伏せしめて、新に一つの他愛的精神を修養し得た事は、今回の行爲が明白に證據立てるので、氏の滿足は固より非常である。假令聊か無謀の譏りはあらうとも、それを以て根本の善意迄も埋沒せしめる迄の勇氣はない。夫人が最後に臨んで此點を論じ、夫に對して其注意方を賴んだ時、氏は靜かに口を開いてかう云つた。『なに、心配するには及ばない。假令犬の爲でも宜い、やらないよりは餘程結構です、今に段々解て來て、常識に外れたやうな無鐵砲はしなくなるだらう。あのアルバアトの顏色を見なさい。何時もよりは生々と幸福に滿ちて居るやうだ。』

其夜一家の人々は又た席を變へて、樂しい團欒を開いた。アルバアトは眸を八方に配り乍ら、

『僕は印度から此方へ來がけの船中の事を思ひ出すねえ。或日誤つてデッキから足を踏外した娘の子があ

つた時、早速一人の水夫が逆捲く波の中に飛込んで、首尾よく生命を助けた事を覺ねて居ます。水夫は濡れた身體をぶる〳〵と犬のやうに振ひ、平氣で以て自身の部屋の方へ行かうとすると、娘の父親は慌しく其男を呼止めたのです。そして、したゝか禮を云ひ乍らポケットから幾個かの金貨を出しましたが、水夫は素知らぬ顔で態と手を後の方へまわして、なか〳〵受取らうとはしなかつた。僕は其時樣子をじつと見て居たから知つて居るが、最後に水夫はかう云つて斷つたです。『私は金子で命を賣りません。』尤も僕は當時馬鹿な水夫もあればあるものと思つたねえ。乘客の中には白痴の水夫だとか何だとか云つて居た人もあつたけれど、今になつて思ふと、あの水夫の精神がすつかり飲込めます。あれは實に偉い高潔な人物であつたのです。』

チユリアはそれに應じて、『全く偉い水夫さんねえ。妾は其娘の子と兩親とが、其後どんなに水夫さんを愛したらうと思ふの。』

此所で一座は端なく宗敎の話に入り、神は愛なりの實例に入り、幼時から精神上の敎化を施さず、只自然に延るが儘に任してあつたアルバアトさへ、此時深くも基督の愛と智とを信ずるやうになつた。（次號完結）

はなごよみ（九月）

初秋袖に入りて白露繁く、蟋蟀漸く金風の聲あるけふ頃日、杖を曳いて八千草の咲き競へる邊りに到り、さて繍錦を飾り彩雲を騎せる霓裳にして奕なる自然の母と同化せん哉。

△木芙蓉。　月みちて夜の芙蓉の坐りけり＝曉臺
△紫苑。　乙鳥の行空見する紫苑かな＝道彦
△鷄頭。　鷄頭や松の幷びの清閑寺＝其角
△雁來紅。　葉鷄頭や花やら葉やら紛めかし＝一水
△龍膽。　りんどうの明日も咲ふと構へたり＝梅彿
△野菊。　芒野の中の流れや野菊咲く＝陽春
△狸豆。　秋雨の閻屋は寂したぬきまめ＝紫泉
△帆掛草。　帆をかけて草も走るが秋の風＝追馬
△縷紅草。　愁ある女ちぎりぬ縷紅草＝其泉
△澤瀉。　おもだかや卿音がましき葉の尖り＝鄒夜
△野鳳仙。　逆まに瀑千丈やきつりふね＝可盛
△藎草。　かりやすの朱に交らぬ尊さよ＝醒夢
△石菖。　せきしやうや目斑動ごけば涙の立つ＝紫泉
△荻。　秋荻の風うろついて人を吹く＝櫻貝
△木賊。　忘れずば三日月拜めとくさ刈＝麥谷
△きたんぽ。　黃蒲公英を折りて爺さん牛の角＝三泉

此の他數ふべきもの少しとせず。萍のいろ〳〵。雀麥の種々、蓮のいろ〳〵、蘆、麥門冬、瀧の髯、仙人草、朝鮮菊、獨活、川穀、楊柳菜、思ひ草（なんばんぎせる）、野海棠、一枝黃花、穀精草、知風草など、それ〳〵芳妍を競ひつゝ笑めるを見る也。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

シチウの調理法

○シチウとは元來、文火にかけて靜に煮ると云ふ事です、肉のシチウは肉を小さく切り、之に適宜の水を加へ固く蓋したる器に容れて、長時間沸騰點より下の温度で煮ることです。

○故にボイルの如く大なる肉塊を其まゝ、稍强度の熱にて煮沸し、其肉汁を成るたけ他へ洩さぬと云ふ方法とは自ら違ひまして、シチウは肉の精分を汁の中へも出し、其汁をも同時に味はふ樣にせねばなりません。在りとてスープやビーフチーの如く、肉にありたけの滋養分を拔き去るのでなく、其幾分を凝固させて肉の内に止めて置くのが肝要です。又ボイルには華氏の百七十度から二百度の火力を要し、シチウは百卅五度乃至百五六十度の熱で事足ります。

○シチウは肉の營養分を人體に攝取するに於て、最も便利にして且つ經濟的なる料理法であります。其理由は第一廉價なる肉を利用し得る事、第二燃料を要す事少く、第三調理法が容易にして失敗の恐なき事です。

○シチウにする肉は、他の方法により殆んとたべられぬ程かたく、又粗末な處でも構ひません。假令へば頸の肉、四肢の先の方、關節に近き處、又牛の尾、老たる鷄など、如何程かたき纖維でも膠質でも、此溫和にして而かも持續的の熱を以てせば、之を和らげる事が出來ます。

○鳥獸の骨、又俗に筋と云て打捨てらるゝやうな部分にも、三十%のゼラチン(膠質)を含んで居ますが、之を悉く拔き出して旨く且つ滋養ある食物にするはシチウの得意とする所であります。

○シチウを作るの順序は先づ、肉を(骨があらば骨とゝもに)大凡八分か一寸立方の大さに切ります。あまり脂肪の强い肉ならば成るべく之を取り去るがよろしい。通例はこれを直ぐに鍋へ入れ、水をさして煮るのですが、其前に一度脂肪でいためるのも良い方法です。

○シチウの前に肉をフライして置けば、後に長く之を煮ましても、其精分のすべてが汁の中へ出て行かず、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

又其色も良くなり、肉に特異なるなまぐさき臭氣を變じて、匂ばしき香ひにするの利益があります。

●肉を脂肪でいためて其色が狐色になりましたら、之を鍋へ入れます。すべてシチウに用ふる器は格別清淨なものを撰ばねばなりません。若し少しでも不潔な點があれば長く煮る間に必ず味が惡くなります。殊に日本料理に用ふる木製の鍋蓋は、醬油や魚の臭氣がしみ込んで居てシチウに不快の風味を寫します。故に銅鍋ならばしろみのよくかゝつたものか、瀨戸引鍋かアルミニウムのシチウパンなどは更に結構です。成るべくは金屬の蓋で蒸氣が多く洩れぬ樣なのがよろしい。又鉛分を含まぬ行平や、壺の樣な磁器の中で煮も宜しい。

●シチウを煮るには水の量と火の加減とをどうしたらよいか、初めからザブ〱と澤山の水をさし、強き火にかけて之を煮つめる人もありますが、それでは肉がガサ〱と乾燥して、まずく且つ不消化なものになります。肉一封度につき一クヲート(四茶碗)の沸湯を加へ、ストーヴならば成りたけ火の弱い所へ置き、火鉢ならば炭火をいけ込み、其上で唯プツ〱云はせるに止め、決して強き七りんの火や焚火で沸騰させてはなりません。

●肉一封度に一クヲートの水とは稍少く思はれますが、固く蓋したる器を文火の上に置けば蒸發飛散する處甚だ少く、若汁が濃くなり過ぎれば、後に適宜の湯を加へても宜しい。

●鍋を火にかけた當座は、血の凝固した樣な不潔な泡が澤山に立ちます、故に之を注意してすくひ取り、浮上る油を悉く取り去らねばなりません。此脂肪はフライなどに用ゐられます。

●斯の如くしてシチウを作るの時間は、肉の良否にもよりますが、少くも二時間、時として四時間以上も費す事があります。故に俄に思ひ立つては出來ぬ事ですが、前以て仕事の順序を立て、文火に預けて置いて折々注意すれば、左程の面倒もなく出來上り、其結果は通例のものに比べて遙かに好良なものになります。

●鹽は肉をかたくするの性質を持つて居ます故、初め

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

から之に加へず、可なり出來てから加へるが宜しい。藥味は胡椒の外、ベーリーブ一葉、丁子一本、或は好みにより蒜の細小片を加へても甚だ結構です。

◎肉が十分煮えたならば、別に麥粉を其儘少しの水に解くか、或はバタでいためて茶色にしたもので其汁を濃く致します。シチウに野菜物を入るゝには、別に之を煮て、其汁を水の代りにシチウへ入れても宜しい。

◎野菜類は營養に必要なる鹽分の多量を含むものですが、之を煮れば多くは水中に溶解して行きます。世人は野菜をゆでた水を全く無益なものと思ひ、之を打捨てる樣ですが、それは甚しい誤りであつて、無害、ジャガ芋も胡蘿蔔などのゆで汁は、スープやシチウの味をつけるに最も貴重なものです。

◎以上私が述べた處はシチウの總論とでも言ふべき大體のお話に止りますが、此法を單位として他に色々變つたシチウを作る事は、讀者諸君が御自身の經驗と又他の方面から得られた智識とを參酌して、種々雜多の趣味あるものを澤山調理せられん事を望みます。(祿亭)

二葉園藝　エデンの花守

●花壇の樣式

「樣式」と申しますと窮屈さうに聞えますが、これは唯だ世間に斯樣な樣式を稱へる人があると云ふことを御紹介するに止まるので御座います。

△リボン式。庭園に道の兩側に、二色か三色の花を、開花期及び大さと色彩りとを能く選んで、リボン模樣のやうに植え付けるのであります。

△絨氈式。これは花の色と草の大さと開花期とを上手に配合して、一朝咲き競ふた時は、全く絨氈のやうな模樣になるもの。

△彩色式。前の二樣式を含んで居るが、花を色によつて色彩よく集めて植えるもの。

右はホンの大體ですが、一體花の植え方は、眺る位置に依つて異ふものであります。即ち四方から眺める花壇なら眞唯中に最も丈の高い目醒しい花を植えつけ漸次外の方へ低い者を植える方がよいのであります。もし又、前の方からばかり眺める花壇から、後の方へ最も大きく丈の高い鮮やかな花を植え、だんだん前の方へ向けて低いものを選ぶやうにするのであります。これは花壇の形にはさう關係がないのであります。

それから望むらくは花壇の邊に泉水が一つほしい。さすればそれに鯉や金魚が花と色と相對させて美しく樂しさうに泳がせ、岩にはいろいろの苔や石松を生やし、崖や岩にはヒヤシンスや水仙などの水生植物を植え込むとどんなに美しいでしやう。

とは申せ、お互の趣味に從つて植えるのを、私は最も貴びます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●九月の園藝　（行事）

徒食者が知らぬ顔の半兵衛で勞働者を食ふこと斗り考へて居る間に二百十日が既に過ぎました。此の時分吹かれる風に大害を受ける農、園藝者は非常な憂慮を以て迎へたで御座いましやう。吾等は自然が今暫く、大氣に恐と不平均とを起させぬやう祈るのであります。

けれども果物は累々と美しく見事に實り、植え付けたものは收穫て吳れよと涼風に人を招く自然の活畫に接せられるのは、皆粒々辛苦の賜物で、我々餘暇に園藝的高尙な趣味を味ふものも此の賜物にあづかられるの愉快は、また格別であります。

笹の葉の露にも星の一つ哉　　鶴友

二つ置く人の心や種ふくべ　　生佛

芋の葉の露や銀河のこぼれ水　　自笑

▲八月の末から續いて蒔くべき蔬菜は細根大根、蕪菁、体菜、京菜、白菜、萵苣、夏午蒡、菠薐、芹、山東菜、芥菜、茼蒿、三葉芹、貝母、花椰菜、葱類、蠶豆、春大根、葉芥菜、甘藍、などでありまして

▲秋の間に蒔かぬと生育の惡い花は左の通りであります。

匂撫子	虞美人草	罌粟
匂逆理草	ダイアンサス	セントレーア
シネラリア	佳香菫菜	エスカスコルジア
ルピナス	美女櫻	スヰートアライサム
三色菫菜	ルドベキア	牡丹罌粟
カンナ	矢車菊	糸撫子
ガウラ	ミオソチス	俵参
水仙翁	ヒラシン	麝香葵

▲それから今蒔きますと來年の春から咲きかける草花は、胡荽子、冬葵、莪苦、細葉芥、赤頭草、大尾草、甘春草、夾竹子、錦葵、蜀葵、金盞化、蛇麻、など。

▲分栽するものは、雁皮、香菫、雛菊、夏菊、木賊、鳶尾、渓蓀、玉蟬花、福壽草、牡丹、芍藥、椿、穿心狐、歟洲款冬、酸漿、幽蘭、一船拱、など。

▲移植るものは、剪夏羅、香菫、雛菊、牡丹、芍藥、幽蘭、水仙、松、棕櫚、銀杏、扁柏、福壽草、緑斗菜、泊夫藍など。

▲接木してよいものは、辛夷、海棠、桃、梨、王蘭、牡丹など。

▲挿木してよいものは、黃梅、紅梅、消梅、葡萄、扶桑花、迎春花、ブツリオフイラム、コリウス、アキラントス、天竺牡丹、香撫子など。

◉キャベージの種類

甘藍の種類に就いて前號に申さなかつたことで、申上げて置かぬとお互に都合のわるひことを左にちよつと。

甘藍

これは前號にお話したキヤベツ〳〵と呼ばれて居るもののことで、又の名を牡丹菜と申しますのは播洲の方言で、紫色を帶びた厚い廣い此の葉が皆な相抱き重なつて牡丹の花のやうに見ゆるからだとのこと。また此の菜を玉菜と稱へますのし、やつぱり葉が重なつて玉のやうになるからでしやう。それからインゲンナとも申しますのはどんな所からこじつけたのかわかりません。

冬春の交紫色が增し、春の末になると緑色になり、葉は開いて芯から黃な四瓣の花を咲きます。形はアブラナや蕪菁と同じです、これは同科の植物だからです。（學名 Brassica. oleracea, L. 佛名 Chou 英名Cabbage 漢名は甘藍、番牡丹、椰菜等と書きますが、これは他の同類に通用される

やうであります）

姫甘藍

これに通常種と矮性種との二變種ありますが、素々此の姫甘藍と申すのは葉牡丹の變種であるから植物學上の所謂學名はありません。通常莖の高さ二三尺で葉牡丹と同じい葉はこれに互生します。其の互生葉と莖との腋へ芽が出てだん〳〵生長するに從ひ、それが葉牡丹の球葉の小いのみたいなのがそれ〳〵一個宛出來ますそれを溫かき家庭の夕べの膳に載せるので、味は葉牡丹に優ります。

矮生種は葉が縮んで居まして球が不同ですから、食用とするには少くて味もたいした優れもしません、此種子を採るには、莖の下方一尺五寸位の間は殘らず球葉を採つてしまつて食用にし、上方の芽（球葉）から出る花を以て採種用にするので御座います。是は一名子持甘藍と呼び、甘藍の二字は漢音のまゝ使つて居るやうです。（佛名 Chou de Bruxelles 英名 Brussels sprouts.）

縮葉甘藍

主に牛や馬や羊の飼料にするものですが、食用にされる變種もあります。左に、

▲Chou a grosses cotos（佛名）通常の甘藍の變種だと思はれる位似寄つて居て、僅かに球を結んで葉が少し縮み、寒氣に堪えるもの。

▲Chou moellier（佛名）丈けが長くて大きく、充分生長したのは五尺位になります。莖の一部と葉の幾部を食するのですが、食用しては貴ばれません。（學名 B.oleraCer acephara D. C 佛名 Choux Verts 又は Kale. 英名 Bolecole）

◉妙華園のことども

南品川の妙華園（東京府下品川町）より花の種子花の苗、蔬菜の種子も多少にかゝはらすよいのを賣るから評判よろしくと、美くしい繪端書が舞ひ込みました。同園は「園藝時報」と云ふ小雜誌をだして花の知識、趣味の報道鼓吹を世間にするべく努め園費見習生迄募つて居、殊に西洋草花が御自慢だそうです。尤も既に信用評判の定まつた同園のことですから、改めて提燈を持つ必要もないので唯だこれ丈け申上げて置きます。なほ「家庭雜誌讀者は幾分の優遇もする」と、つけ加へてありました。

▲私へ御質問下さつた方へ手紙で答へたのは、別に誌上で繰り返へしません。誌上へ載せるにも一々誰々の質問として書かぬから、題と中か味で御推讀下さい。

▲何事でも一方へ偏し易いもので、此の花を愛し自然を樂しむことでも、やつぱり花道樂、植木道樂になるのもとで、之は考へものです。要するに家庭を包む彼の寛量な自然の產物として花を樂しみ愛し、小童や吾々の理科の先生として尊敬するにあるので御座います。

●花の友新家庭の友へ

私は花の友、花の研究者を以て任じ居るものですが、一面、微力ながら私の唯一武器たる「誠」を、新家庭の友としての方面へ捧げて居るのであります。ですから皆さんには、世上有りふれた單に分業に依つて本誌の園藝欄を書いて居ると斷じて下さるな。人生意氣に感じ誠に索かる。私は枯川先生の意氣に感じ洛山大兄の誠に引かれ、自ら好み勇んで皆さんと友となつた譯けであります。

實は私を誤解して下さる方もあるので、斯くは意のある所と皆さんに對する態度とを明にして置きます。諒焉。

✿ ✿ ✿ ✿ ✿ ✿ ✿ ✿ ✿

家庭通信

遠江　午山　生

余は子供の時は花が好きであつて、狭き庭と云ふよりは空地へ、季節々々の花を植えたこともあつたが、青年時代よりは人の培養した花を観て樂むことはあつても、自身に作ろうと云う考へを實行したことは無くて二十餘年を過ぎた。

昨年の春現時(いま)の住ひへ來た時、六坪ばかりの空地があつたので、一袋二錢だかの朝顔の種を買て蒔いた。處が動機は變なもので、二錢の朝顔を蒔くまへまでは、隣家に百鉢の餘も朝顔を培養する人々が在つても、別に心にもとめもせず過ごしたが、自家へ蒔て見ると隣家の花の樣子も見たくなる。其内花も咲いて來る。花の比較もすると云ふようになつた。家の安き假の種の中から二種計り隣家に無き種類が咲いた。隣家では一粒十錢とか二十錢とか云ふて居るのに、一粒二三厘の種からも珍らしき花を得た喜びは、それこそ何と云ふてよいか知れぬ。これが朝顔を本年も作り明年も其明年も培養しやうと云ふ考へを起した初めである。

朝顔を蒔くとき石で造つた花壇、マア花壇に空地のあるので初めて購て植た草花は一本の遊蝶花(三錢)であつた。それからヒヤシントも來る、花サフランも來た。その後靜岡へ行たとき、十錢計り種子を購つて來たので、今では十幾種と云ふ數に上つた。併し十幾種とて極少數であるが、この極少しの草花も一種も無かつた時と比ぶると、實に多數である。多數少數は余の念頭には無い。花の美が只あるのみである。

花の培養を初めてから、余の道樂は一變した。余の道樂は新刊の小冊子を購ふことであつたが花を初めてからこの道樂とだん／＼離れて、今では中々購はない。從つて運動の爲めになると云ふよりは、空想にふけることが少ない。それ故、余は花を作るは氣を變へる爲めであると云ふて居る。この理由で更にこれを友人に勸め、現に今實行さへして居る人も出來た。

草花の培養にも出來不出來がある。好く出來た時は其理を究めて尚能く作ろうと思ひ、不出來の時は其因を尋ねて再び繰かへすまいと考へ、云はゞ此中に云へもせず背けもせぬ妙味があつて、花の培養以外に自然の教訓を讀むこともある。花は余が家庭の話題となつた。隣家の噂は兩三日遠かることがあつても、日として花の咄しの出ないのはまれである。余が家で笑ふことの多きは猫であつて樂しきものは花である。この花啻に余の家庭の樂みのみでなくて、知らぬ他人も見れば喜ぶのである。余が盆栽より草花を培養するのは、盆栽物に拂ふ代金は余の耐へ得ない處なのと、尚一つは草花は變化の多いためである。

過日久田二葉君よりの芳信に「貴下の家庭に花咲き鳥歌ふの長く久しからんを祈る」とあつた。鳥はドウかも知れぬが、花丈けは決して絶やさない考へである。

〔附記〕家庭雑誌記者足下、毎號紙上に二葉君の園藝談記載せられるのは、僕の喜びて讀むところである。家庭の通信として如何かは存しませんが、僕の實際を右の通り誌したのであります。又吾家の花より吾家の猫に就いて抱腹することが澤山あるが、僕は筆を執ることの出來ない方であるから止めよう。大變面白く拝見しました。趣味溢は、斗りです。(記者)

注意 ▲二葉園藝(花好きの人の爲質問隨意)▲家庭通信(讀者諸君よりの通信を掲ぐ)▲西洋料理の栞(藤亭主人擔當にて質問に應ず)▲讀者の顧問(新家庭を作る人に取つての相談役)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

予の妻の死に就いて

枯川生

去る頃、予が平民新聞の筆禍に依つて巣鴨監獄に入つて居た時、予は毎月の朝夕に角筈の我家を想望して、獨り竊かに獄中生活の無聊を慰めて居た。其時、予の心に畫かれたる我家は、先づ椽側の障子が開けはなされて、華やかな朝日が一面にさしこんで、其の暖かき椽側に予の女兒と五疋の猫の子とが這ひあるいて、予の病みたる妻は椽側に腰かけて居るか、庭をそぞろ歩いて居るか、笑顔の善き彼の女中は、庭の松の木から柘榴の木に竿をかけわたして干物でもして居るか、そして其干物の下には、二葉君から種を貰つて大騒ぎをして育てあげた彼の草花が、モウ蕾みそめたか、咲きそめたか、と云ふ樣な光景であつた。

それが今將た如何の狀ぞ。朝日はイツもの通り輝いて居るであらうが、其光は徒らに閉め切つた雨戸を照して居るであらう。花園は狼籍に折れ亂れて、其間に紫苑などが、纔かに咲き殘つて居るでもあらうか。猫の子は、一疋は死に、一疋は迷ひ、三疋は嫁に行つて、殘つた親猫は戀々此空家を守つた後、今ではお隣りの福田氏に飼はれて居るとの事。予の妻は八月の末から神奈川の加藤病院に入つて、九月の十八日に死んでしまつた。予の女兒は其前から女中に伴はれて小田原に行つて居る。予は角筈の家をたゝんで平民社に住み込んで居る。猫も平民社に連れて來やうと思うたが、片付最中に姿を隱して遂に其儘になつてしまつた。斯くて予の一家は離散した、予の家庭は滅亡した。

予は之を悲まざるを得ぬ、之に對して哀を感ぜざるを得ぬ。然しながら此悲哀の中には多くの趣味と大いなる教訓とが存して居る。予は平民新聞に『晩夏初秋の感』と題する一文を載せて左の如く云つた。此際に於ける予の感想は是れに盡きて居る。

▲予の生涯の青春は疎狂放縱の間に過ぎ去つた。予の父母の死は正に其一段落を劃して居る。予の生涯の盛夏は平凡なる家庭生活の間に過ぎ去つた。予の妻の死は正に其一段落を劃して居る。而して今や明治卅七年八月下旬、予年三十五歲、漸く茲に晩夏初秋の感を催

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くに至つた。然れども、「一年の好景、橙黄橘緑の時に在り」とせば予の生涯も亦是より多少の美を成し得るかも知れぬ。而して予の死は最後に其大段落を劃するのであらう。

▲「夫をして成るべく多く世の爲に働かしめるのが、此際に於ける御身の務めにして又名譽であると思へ」とは、予が久しく病中の妻を訪ひ得ぬ時、手紙を以て彼れに諭した言葉である。又「同情ある人々が御身を助けて斯く安らかに其病を養はしめるのは、即ち予の一身を自由にして、成るべく多く世の爲に働かしめんが爲であるのだ」とは、予が病重き妻を殘して平民社に向ふ時、靜かに彼れに對して告げた言葉である。而して彼れも亦やゝ予の意を解して、聊か守る所もあつたかと思ふ。されば妻の終に逝きたる時、「予は之を以て予の運動を自由ならしむる天意と解しておく」と二三の友人に書き送つた。

▲予は最早、骨肉の死に遭うて酒を被つて欝を遣ると云ふが如き、客氣ある疎狂の人では無い。又、最愛の永別を悲んで惆悵しとて自ら傷ると云ふが如き、單純なる家庭の人でも無い。晩夏初秋の予には、あらゆる境遇に處して天命を樂むと云ふが如き、やゝな高尚趣味も少しは生じて來た。

次に予の女兒の處分は『予の妻の死』より生じたる最も困難の事件である。然しながら是れとても亦、予に於ては只自然の天命に從ふまでの事で、敢て之が爲に甚だしき焦心苦慮をする譯では無い。只今の考では、忠實にして怜悧なる一婦人(前記の女中)が、予の爲に、

予の女兒の爲に、暫く其一身を捧げて親切に世話して呉れる。行々の處分に就いては、此孤兒を預かつてやらうと申込んで呉れた方が四五人もある。予の姪も亦切に之を望んで來た。予の從姉妹も亦熱心に之を予に說いた。予は未だ何れとも決しかねて居るが、何れにせよ、予は只最も適當と思はるゝ方法を探つて、自然の成行に任せるだけの事である。

次に財政の事。予は是れに就いても亦、此際大いに學び得た所がある。去年平民社を起して以來、予の家の支出は常に其收入に越えて居た。而も收入を增さんが爲に、予は曾て何等の運動をした事が無い。予の全力は平民社の事業に注がれて居た。此家庭雜誌にすら每號寄稿する事が出來ぬほどに多忙であつた。そして平民社から貰ふだけの金で、只やれるだけやつて行く。それ以上の金を得ようとも思はず、それ以上の事をしようとも思はず、貧乏の間にも心は誠に氣樂であつた。然るに巣鴨行と云ふ事件が突然として起つた。あの時には隨分困つた事情もあつたが、それもマア仕方が無

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い、成るやうに成るだらうと、強いてそれを防ぐ策も講ぜず、只自轉車を賣飛ばして多少の息をついたのみで、跡は平民社にお頼み申して出かけて行つた。所が予の窮を憐む篤志の士が、思ひもかけず多少の見舞金を寄せられたのでお蔭で予の妻は差しあたり小使に不自由をせずに濟んだ。然るに又或日の事、一人の匿名の高士が使の者を予の家に遣はして、一封の金を予の妻に與へた。予の妻は跡で其封を開いて驚いた。百圓と云ふ(我々には)大金が入つて居たのである。此百圓が自然に今年前半の予の家の財政を補うた。それより兎かくする中に予の妻の病が重つて來だ。丁度同時に子供までが腹を惡くして下痢を始めた。何かにつけて支出の嵩むは無論である。予は自ら如何ともする事が出來なくなつた。暇さへあるならナグリ書きの原稿を拵へて、それを賣ると云ふ位の便宜もあるが、平民社に於ける予の一身にはソンナ餘裕が無い。又そんな金もうけ仕事をする氣にもならぬ。そこで少々當惑して居ると、又そこに自然の道が開けて來た。即ち、社會主義の同志にして醫士なる加藤時次郎氏が、予の妻をば神奈川の分院に、予の女兒をば小田原の別莊に、それ〴〵預かつて呉れる事になつた。そこで予は前記の如く家をたゝんで平民社に住み込んだ次第である。それより二十日の後、予の妻は死んだ。葬式前後の費用は到底予の負擔し得る所で無い。然るに予の友人と同志者と及び未だ曾て相識らざる幾多の同情者とは、少からざる香奠を予に贈つて呉れた。予は何の苦もなく此一事件を片づけ得た。此に於て予は考へた。人は之を乞食の生活と笑ふか知れぬが、予は此の乞食の生活に安んずるが善いでは無いか。月給の多寡に氣をあせつたり、貯金や内職に苦勞をしたりして、そして獨立だの獨歩だのと威張らうより、人の親切と自然の成行とに打ちもたれて、流れに從つて行く方が、何程氣樂で、何程安心であるか知れぬ。予は兎もかくも平民社から幾らかの月給を貰つて居る。予と予の女兒との生活はそれで以て支へられる。予は只平民社の事業と予の主義との爲に働き得るだけ働けばそれで善いのだ。予は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

斯くの如く一身一家の財政に於て全然他力主義を取る事となつた。

最後に予は、再婚をするなと予に勸めて呉れた二三の友人に答へねばならぬ。予は婦人に對しても、夫に死に別れた後の獨身生活を強ひぬ者であるが故に、予自らとしても亦、妻に死に別れた後の獨身生活を自慢らしく高言する心は無い。又實際に於て、將來予の心が如何樣に變じ、如何樣に動くまいとも限らぬ。こんな事を前以て約束するほど覺束ない事は無い。然しながら又、現在の予の感情としては、獨身生活も亦甚だ面白いと思ふ。『晩夏初秋の感』の一節に左の如く記して置いた。

▲予は多くの人々から見舞を受けた。予は深く感謝する。然しながら諸君願はくば安んぜよ。予は平民社に起臥して未だ曾て孤獨寂寥の感を起した事が無い。初七日の逮夜に、花を飾つた佛前に於て、濟田老嫗が拵へて呉れた田舍流の牡丹餅を、社中の諸豪傑が寄つてたかつて食ひながらの放談高笑を見る時など、こんな愉快が又あるかと思はれた。

畢竟、獨身生活は小家庭を出で丶大家庭に入るのである。予が予の妻と女兒とを以て組織して居た小家庭は滅亡したが、予は更に平民社と云ふ稍大いなる新家庭を得たのである。否、平民社よりも更に大いなる友人、知己、同志と云ふ一團の暖雲を新家庭として得たのである。家庭と云ふ言葉を廣義に解釋すれば、安住處とでも云ふべきであらう。予は此社會全體を以て我が家庭とし、我が安住處とするに至らんことを希望する者である。

猶二三の事を附記して置く。予は今の葬式が、勉めて其行列を飾り、之を人に示さんが爲に態とらしく大道をねりあるくを憎む者である。故に予の妻の葬式には、一切送葬の行列を廢し、只午前八時より某寺院に於て之を執行した。而して予は予の妻の遺骨を擁し、人力車に乘つて之に赴いたのである。次に香奠に對する返禮の事。眞逆に饅頭を配るには忍びず、さりとて金何十圓慈善事業に寄附致しましたと廣告するにも忍びず、只謹んで有がたく頂戴いたして置きます。最後に尚一つ墓の事が問題として殘つて居るが、是れに對してはマダ予の考へが定まつて居らぬので、只問題として世に提供して置く。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

悲惨なる 少女の運命

渚山生

東京には田舎娘のよく懸るポン引と云ふのがありますが、私が今此所に少しく書き記し、家庭雑誌の記者としてこれを諸君の前に訴へやうと致すのは、今日の立派な家庭の内に於て行るゝポン引の事であります。

私はこの邊の消息を明瞭にせん爲に、此度自ら出合した有りの儘の事實を述べませう。丁度七月の下旬の事であつた。其頃新婦と共に兄(嫁の)の家の二階に同居して居る友人を、久し振で訪ねて見ました。すると其所に一人十七八にもならうかと思はれる娘の子が居て、茶菓を出す新婦の助手をして居ります。私は話の断目に「あの娘さんは?」と尋ねると、友は性來神經質の顔を一層青くして、「實は僕の從兄妹だが、彼女の事で二三日寢ないのです。」と答へた。それで、段々樣子を聞いて見ると、其娘と云ふのは今年十六歳、これが例の家庭裡のポン引に掛つて、重ね〳〵の恥辱を受けたと云ふ話。初め此娘が慈愛深き父母の膝下を離れて東京へ上つて來たのは、尋常小學を卒へて二年後漸つと十四の歳でありました。小間使として雇入れられたのは、目下某官省で高等官の職を奉じて居る紳士の家でした。其紳士及夫人は娘と同郷で、娘の兩親などは其智識と地位に於てこそ隔てはあれ、萬更知らぬ間柄ではなかつたのである。それにも係らず、紳士は何時か其娘にいたづらを持掛け、以來二年有餘の間と云ふもの、全く自分の妾の如くにして弄んで居たのです。處が去る六月中のこと、紳士は何か感ずる處(多分、難件が起るべき事を恐れたのであらう)があつて、突然彼女を解雇し、恰もひゞのある陶器を何喰はぬ顔してそつと他人に手渡するやうに、私の友なる××生へ引渡して了つたのです。此時若し××生にして今少しく思慮あり、力量のある男であつたならば、此上彼女の上に禍は落ちて來なかつたでせう。殘念な事に、彼は力量なき癖に兄貴役をしたがり、つまらぬ事を關渉して世話した氣で五日七日と經つ内に、今度は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新婦の兄に思ひ付かれて何時しか野合の果敢なき關係を結ぶやうな次第となつた。と同時に新婦の方の兩親は伜(新婦の兄)のした過誤の責任を免れやうとして、「從兄妹だか何か知らぬが、其樣な女には用事がない。一日も早く出て行つて貰はう。」と云ふ胴慾な調子で逆捩を食はして來る。此に於て事件は益大きくなつた。幾多の事情、幾多の情實、紛然雜然と重なり合つて、友××生の單純な頭腦では、到底此問題の解決が出來ないやうな事になつて了つた。私の訪れたのは丁度此時で、思へばこれも不思議な運命の片影でがなあらう、一時其場の處置を付ける爲と云ふ理由で、私は其娘を私の宅へ置く事を懇請された。其夜から、私の宅には終に一人の家族が增へたのです。それに連れて、私の頭腦には新に考ふべき一つの問題が增へました。それは先づ娘の性質と思想とを觀察し、其上若し可能なれば、彼女の今日迄の心柄も一應聽糺して、正當の解釋を與へたいと思つたからです。尤も、××生へ引取られてから後に起つた事柄は、此場合左程の研究を要する事もなからうと信じたから、私の目的は一に紳士との關係を知悉するにあるのです。斯くして、二三週間彼女と共に暮して居る內、私の豫期して居た想像は全くの眞理となつて顯はれた。即ち、彼女に一つの邪心なく、利欲の念は未だ毫末も其心に存在して居りません。彼女は二年有餘の間殆んど無我夢中で、紳士の玩弄物となつて來たのです。彼女には節操の貴きを知る力のない計りか、節操の何物かも知るの智識がないが故に、固より金錢と交換をしやうと云ふ賤しい心は少しもない。委しく言へば、彼女は浮世を知らぬ惡をも知らぬ、眞に純潔な正直な乙女であつたのである。只彼女が紳士に對して抱いて居た觀念と云ふものを說明して見るならば、丁度田舍娘が東京と云ふ魔物に醉つて、都へさへ上れば偉くなれると考へて居ると比しく紳士を以てしかく信賴すべき開運の大能者とも思つて居た位であらう。

　此に於てか、私は筆を改めて紳士の面前に立たねばなりません。彼は權威を利用したのである。彼は戀情

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を解せず、將た智識なく世事に通せず、全く一定の思想と意志とを有たぬ一少女に向つて、思ふ儘なる凌辱を加へた敗德非道の紳士であると云ふのみならず、其未だ利慾の味を知らざるに附込み、普通の賢女としては當然仕拂はねばならぬ金品をさへ、一も與ふる處なくして濟ませた、云はゞ肉的快樂の盜兒でありました。世の中にこれ程冷酷な事がまたとありませうか。彼女は實に神の兒であります。少くとも其心は神から受けた儘の寶でありました。紳士はこの寶を踏つぶした大惡人であるのです。

紳士に於ける判決はこれで濟んだ。併し私は最後に打捨難き一つの肝要な意見を持つて居る。即ち娘の兩親の責任問題です。私は好んで裁判官の地位に立つのではありませんが、此過誤に就ては兩親の罪も亦甚だ輕からずと思ふ。無論地方にある人の普遍的思想として、郷關より出で、天晴立身出世をした人士を尊重敬畏し、其結果娘などを女中に遣つて貰ふのを無上の榮譽と心得る親達のあるのは少なくない。これ一應は道理であるが、併し智慧ある人の考とは決して見られません。私が此娘の兩親並びに世の子を持てる親御達に告げたいのは此點です。貴下方は何故にしかく不用意不注意なるや。貴下方の家の近くには美しく甍を列べた堂々たる校舍なきや、學校は子供達が天賦の才能を圓滿に發展させて吳れるに最も便利な所です。若しも其娘を一人前の見識を持つた人間にしたいとならば、考へ次第でいくらも方法はある事です。何も好んで狹い小さな他人の家庭へ娘を押込め、特更卑屈の精神を養はせるには及ばぬ事です。若し又世の中に、「女には教育も何もいらぬ。嫁入の費用でも儲けさせやう。」と云ふやうな勘定高い親御があるならば、その人は實に非常な心得違ひです。子は我が産んだ子であつても、我の所有物とはなりません。社會からの預り物で、一人前の人間となる迄は、責任を負つてこれに教育を施さねばならぬ。勿論これには貧富の問題があり、早晩社會組織の改革を待たねばならぬが、それにしても今日は今日、未來は未來、今日に處するには矢張今日の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

覺悟が必要です。貧乏しければ我慾を斷ち我衣をも賣をも賣り、斯くして子供を完全に敎育し果したならば、如何に其子の幸福に、又如何に其親の光榮にあらう。私は此娘の兩親に對して、過日不取敢此意味の手紙を出しました。知らず兩親は私にどんな答辯をよこしませうか。

［附記］　此物語は端なくも日本の非文明なる一面を最も巧みに説明したものであります。男子社會の亂暴猥褻なるに比して、婦人界の如何にも重みなく、そして脆弱なること。男子は少しも少女も節操を尊重せず、少女は其親の不束なるが爲に節操を尊きの知るべき機會を得ず。これ甚しき恥辱ではありませんか。私はまた此紳人の妻なる人に就いて少しく申したい。即ち彼女にして情を知りつゝ、かゝる汚行を其夫にはたらがせて居たとすれば、それは實に沙汰の限り、心事の陋劣寧ろ唾すべしである。假令又全く初より氣付かずに居たとするも、家事不取締りの譴責はどうしても免かれぬであらう。

地方讀者諸君に告ぐ

本誌は毎號時期を誤らずに、大賣捌所の方へ廻して居るのですが、若し地方の書店にない時は、賣捌所の手落ちで、届かぬのであります。其樣な事が度々續きましたら、どうぞ直接に本社へ御註文下さい。速達を計ります

由分社

編輯便り

○堺夫人の逝去　編輯便りの冒頭に於て、本號には此悲しむべき報導を諸君に御傳へせねばならぬのです。實に亡夫人は品格に高く又た優しき人でありました。氏が貴き事業の一つなりし『家庭の新風味』著作の大成には、無論亡夫人の功勞が其半以上を占めて居る事を信せずには居られません。今回の不幸は獨り堺氏一家の不幸ではなく、最も淸き、且つ効蹟ある家庭を一つ日本の土地から奪はれたもので、我々家庭者仲間が受けた所の禍は眞に莫大です。尙ほ此上には別項にある同氏の感慨文一篇を味つて下さい。因に菩提寺は芝白金三光町の重秀寺、志ある人はそこに秋郊の淸景を訪ね乍ら、墓前に一枝の花を手向けるも好いでせう。

○質問の應答　烏丼西店夫人、横濱賤女其他二三の奥樣方より料理の質問が來て居ります。これ等は次號に於て悉くお答へ致しませう。

○宮本如雷君に　御好意多謝致す。貴命の如く今后其二ヶ條を追加しませう。

○梧友君へ　寡婦續出の事眞に痛恨の至りに堪へず。家庭雜誌固より幾分慰籍の任に當る[illegible]寧ろ當代思潮の然らしむる處、人心の[illegible]決して此禍を拔く事出來ず。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

外科皮膚病梅毒痔痳外科的婦人科尿道器械的療法

診察 午前九時より十二時まで

東京 新橋際出雲橋 加藤病院

院長 獨國醫學士 加藤時次郎

分院 横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時
小田原海岸 毎月曜午前中

東洋內科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

電話本局 八八八番 一三八五番

院長 醫學士 高田畊安

診察 毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷後隨時應需、火木土曜、窮者施診〇病室增設落成

南湖院

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱（停車場所在）

副院長 醫學得業士 林止

診察 院長出診土曜日午後、副院長診察毎日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷後隨時應需、土曜日午後施診

高田病院施診所

東京麴町區三番町三十番地（市ヶ谷停車場附近）

主任 醫學士 松田三彌

診察 毎日午前、但日曜大祭日休業、窮者ニ施診ノ上其病名及養生法ヲ示シ處方箋ヲ與フ〇往診應需

小兒診察

午前宅診
午後往診

牛込區南町參拾參番地

宍倉織造

（電話番町六百八十八番）

生儀多年濱田博士の助手となり東京產科婦人科病院に奉職中の處昨年同院を辭し左記の處に於て開業致し居候間此段謹告す

▲毎日曜日には濱田病院

副院長 醫學士 辻高俊氏

來濱助診せらる

▲入院患者の爲めに病室の設あり

横濱市眞砂町二丁目二十六番地

朝長鷹次郎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

飯倉四ツ辻 飯倉支店 電話新橋一五七四番

赤坂表一丁目 赤坂支店 電話新橋二〇六八番

四谷大通り 四谷支店 電話番町五一〇番

牛込神樂坂 神樂坂支店 電話番町六三〇番

本郷一丁目角 本郷支店 電話下谷七二番

神田須田町 須田町支店 電話本局二〇七三番

銀座一丁目河岸通り

帝國貯蓄銀行

(電話 新橋) 八一六番 二八〇八番

兩國米澤町 米澤町支店 電話浪花二五九〇番

淺草吾妻橋通 吾妻橋支店 電話下谷七三番

南品川一丁目 品川支店 電話新橋一一三九番

横濱吉田町 横濱支店 電話横濱一三〇四番

日本橋坂本町 代理店 田中銀行 電話浪花二四〇番

●愈々來九月一日發賣●

幸徳秋水著

社會民主黨建設者 **ラサール**

價拾五錢 郵稅不要

(ラサール肖像寫眞版挿入)

主義の爲に生き戀愛の爲めに死せるラサール其人の一生の經歷と其前後の形勢とを詳叙せる者、多大の歷史的智識と小說的興味を兼用する、近時此書の如きは稀れ也、敢て一讀を乞ふ

發行所 東京麹町區有樂町三丁目 平民社

▲人々漸く戰爭文字に厭かんとす是れ固より當然のみ此時淸新健全なる眞文學の淨樂天地に遊ばむと欲する者は本誌に來れ

文庫

八月發行

第貳拾六卷第五號

英杜戰史の第一夏（本誌十五頁に亘る）　小島烏水

亡國の英雄クリューゲルの訃を聞いて發せる感慨烏水子を驅つて斯の如き大文字を作らしむ是れ英杜戰史の概論また是れクリューゲル、セシルローヅ二傑の評論々斷の爽利と筆華の絢爛と共に洵に感嘆に値ひす此の戰役に關して邦人の出せる著述中光彩正に第一也

冷眼冷頭（論評）六號活字（烏水白蓮等）五行文第一回（お島十五以下十二篇意の饒文の鮮眞可愛）

（小說）藤花の記　これ藤花か、これ美人か、これ我か心か、これ他が情か、幽韻淡々

（小說）夏夜巷談　哀哉心願成る日は彼女が逝く時なりき絕叫す天無情

（譯文）〈龍前の夢　何ぞ奇なる、何ぞ怪なる、覺め來つて茫々

（日記）夏菊日記　洒落の筆致、其妙を極む、活眼老手

（華文）浦代ゆき　山野河海「行く〳〵見る所何ぞ美なる、而して有明傒遠方

（華文）幾人回　古來征戰幾人回、噫壯士一たび征ひて歸期知る可からず

（寫生文）聽法　寺に詣つて法を聽かず、却て耳目を寫生に役す、佛罰可恐

（韻文）白石島に立ちて　朝暾詠む可し夕陽歌ふ可し白波、淡烟、みなわが心友

（韻文）夏日高樓吟　淸風懷に滿ち、白雲空に流る、高吟朗々

（韻文）秋海棠　可憐なる哉我海棠、汝うなだれて何を思ふ

（韻文）ひばり　高翔雲に入る時は飛箭の如く、直下草に落る時は流星に似たり

（韻文）懊惱　俗人は懊惱して涕泣し、詩人は懊惱して咳唾珠を綴る

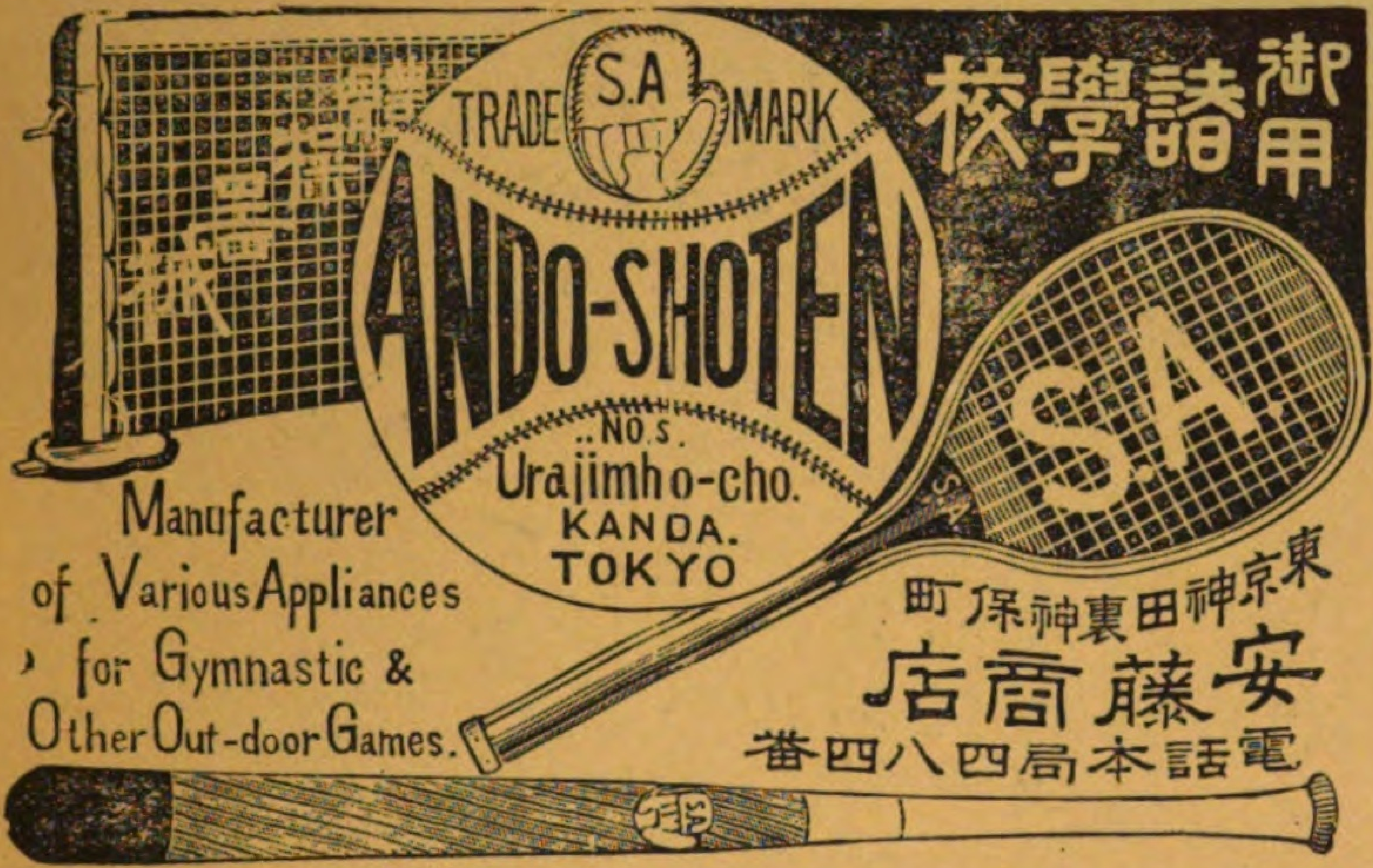
▲定價

一冊金十五錢……六冊前金郵稅共九十錢……十二冊前金郵稅共壹圓六十八錢……一ヶ年（定期增刊四冊共十六冊）前金郵稅共貳圓廿四錢

藤波樂齋編輯　類題　川柳名句選　新柳樽　二書共新版○定價各金二十錢郵稅二錢宛○郵劵代用一割增

▲發行所　東京本鄉區駒込西片町十番地　內外出版協會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



改良ロンテニス
二重枠ラケット一組

一號品　一二、五〇〇
二號品　一一、〇〇〇
三號品　八、八〇〇
四號品　七、四〇〇
五號品　六、七〇〇
六號品　五、七〇〇
七號小學用　四、七〇〇
八號婦人用　六、〇〇〇
九號婦人用　七、〇〇〇

改良ロンテニス
櫻二重枠ラケット一組

一號品　一三、三〇〇
二號品　一一、七〇〇
三號品　九、五〇〇
四號品　八、二〇〇
五號品　七、二〇〇
六號品　六、二〇〇

ピンポン室內テニス

一號　一箱　一、二二〇
二號　同　一、五〇〇
三號　同　一、六八〇
四號　同　一、八三〇
號外　同　〇、八八〇

改良テニスネット

一號　一張　四間半　一、七五〇
二號　一張　五間半　二、二五〇
三號　一張　六間　二、四五〇
四號　一張　七間　二、九五〇

ゴム入フートボール

二號　一個　四、〇〇〇
三號　同　四、五〇〇
四號　同　五、〇〇〇
五號　同　五、五〇〇
六號　同　六、〇〇〇
七號　同　六、五〇〇
八號　同　七、〇〇〇
體操遊戲器械一切

東京神田裏神保町五
安藤商店
電話本局四百八十四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA